

ひ ろ ば 大代

S 59. 4. 5

大代公民館

昭和五十八年度を省みて

館長 橋本昭二

公民館の年中行事で有ります市政懇談会・敬老会・文化祭・激励会・体育祭など、全町の皆様の御協力によりまして年と共に盛んになって行く様です。又館報「ひろば大代」の発行に当たりましては、心良く御寄稿の依頼に応じて頂き、お蔭で毎月欠かさず皆様の御手もとへ御届け出来、関係者一同厚く御礼申し上げます。

次に当館の利用状況ですが、現在未だ集計中ではありますが、又又、昨年度を大体上廻って居る様です。喜ばしい限りで併せて御礼を申し上げます。

さて前年度を振り返つて見ますと、大代町の皆様と談を交えての話し合いが足らず、公民館活動の全内容や、社会教育とは何かと言つた掘り下げが今

一つではなかつたかなと反省を致しております。本年は特に「明るい町づくり」を目指し、全町の皆様の、より絶大な御力添えを得て目的達成に邁進致したいと思ひます。

### 成人病予防について (1)

#### なぜ「予防」を図まるのか

医師 国 幸

成人病に対する乳幼児期というべきでしうが、この時期が予防接種によってその半分以上を防ぐことが可能となつた今日、残るところ殆ど遺伝病と成人病とで占められるようになつたよう

限や、動物性脂質制限も、一見姑息的ともいえるようでも致し方のない現状なのです。只いえることは、乳幼児病は免疫可能病といえるように、多くは急性外来性疾患であり、成人病は慢性内因性疾患が殆どであることを免疫が否定され、予防のために接種は不可能で、食物や生活環境の是正にたよる以外にないのであります。

#### (詳しくは次の欄をご覧下さい)

### 明るい町づくりは 一日の出会いから

婦人会長 渡 譲子

「健康で人情豊かな大代を築こう」をスローガンに大代町明るい町づくり推進協議会が発足されました。

明るい町づくりの基本は人と人との関係が明るい事であると聞いております。

一日の朝の出会い、お互に心から「お早うございまーす」の挨拶が出来たら気分爽快、何か良い事があつた様に

顔の和むのが分ります。身体の健康ばかりでなく、心の健康も併せ、広い度量の持主でありたいと思ひます。

緑と花のある何かホッとする町、笑顔が返つてくる心から安らげる故郷である事が、一番望ましい町づくりではないでしょうか。

### 「ひろば大代」に寄せて

下谷 尾崎 三枝子

昭和五十四年以来「ひろば」を発刊

なさった関係の方々に敬意を表します。

「ひろば」は大代の歴史となつて残つて行く大切な資料であり、又町民のふれ合いの為のものであります。

高度成長の波に乗る為には物の追求が余儀無くされ、若い者は都会へ流出し、かろうじて残る者が大代を支えている現状です。

「明るい町づくり」と言う声が上り努力はなされていますが一番大切な事は町民の横のつながり、ふれ合いだと思います。

「ひろば」は町内の行事、農協・学校のあらゆる情報、人々の考え方等々

細かく報道して頂いて居り、これによつて我が町の色々な出来事、問題点等知る事が出来ます。

私等は自分なりに参加出来る事には参加し、我が町を盛り立てて行かなけれどと思ひます。「ひろば」を通して町民としての自覚を持ち協力の大切さを痛感致します。

### 生活のなかの郵便

郵便局長 竹崎 善應登

人間どうしの憎しみ・無理解をやわらげることは昔からの課題で、長く連れそつた夫婦間でも、毎日誤解が生まれているといいます。

現在の自分の気持をなんとか相手に伝えたいことから手紙を書きますが、理解とか感激とかが第一で、感激の程度が弱かつたり、書き方にこだわりますと安価なてがみも利用しない今まで終つてしまします。忙しさに追われ失礼もあります。

巣立つてゆくわが子とのたよりの交換も良いし、町内でのやりとりもすばらしいことではないでしょうか。もつ

ともつと理解し合うための方策が考えられてよいと思うのは私のみでしようか。

生活と郵便とのかかわりや楽しさを話題とする「郵便教室」を提案したいのですが御賛同が得られましょうか。

### 短歌



横手 いちえ

。やわらかく芽吹きうながら降る雨に

赤き芍薬はやはぐれたる

。春の闇 目覚めに風のでたるらし

咽喉うちらし 遠蛙鳴く

。彼岸花 土手一面に 紅もえて

ほのほの如く かげろうの立つ

。乳色の 覆にけむる 山狹に

こぶしの花の ひそと咲きける

。就職の 子送り出す 薄明り

。遅き春かな 水仙香りて

渡利満枝

。娘のくれし 肩寄せ合える 作り難  
めおと二人の 部屋の華やぐ